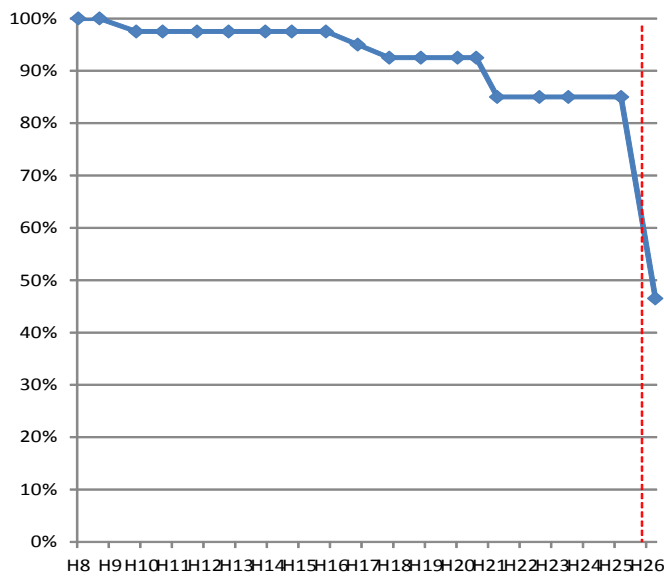


樹種名	アラカシ		
科 目	ブナ科		
学 名	<i>Quercus glauca</i>		
分 布	日本では本州東北以南、四国、九州に分布する。		
樹木特性	半陰樹でありカシ類の中では、乾燥や貧栄養によく耐える種である。 伐採すると切り株から萌芽する。萌芽力は強い。		
用 途	材は柾目に美しい虎斑があり、床柱・器具・槌の頭・くさび・拍子木・三味線の棹・農具の柄・床柱・建築材などに利用。庭園樹としても利用。	  	
植栽本数/面積 (植栽密度)	71 本／0.02ha (3,000 本／ha)		
特 徴	【樹 形】 常緑高木で樹高は 10~15m 程度になる。 樹皮は黒っぽい灰色。葉は互生し楕円形で硬く、先は尾状に尖り中央から先にあらゐ鋸歯がある。裏面は粉を吹いたように白い。開花期は 4 月から 5 月で、雌雄異花。 果実（堅果）は、いわゆるドングリのひとつとなる。殻斗（かくと【実の一部または全部を覆う椀(わん)状・まり状のもの部分】）は環状である。材は日本産木材の中で最も重く堅く、強度も強く、柾目に美しい虎斑がある。		
試験地での様子	平成 8 年にポット苗により植栽し、植栽当初には苗木上部に枯れが見られたが、萌芽力も強く再生した。また、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生し枯死するものも見られた。 植栽後 18 年が経過した現在の平均樹高は 11m 程度にまで成長している。		
被 害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ：14 本、カミキリムシ類：11 本)		

アラカシ 現存率



【現存率】

植栽直後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害により枯死が数本発生した。

平成 21 年度からは順調な生育状況であり、これ以降の枯死は見られない。

林内の照度調整を図るため、平成 21 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に、毎木調査を実施した結果、現存率は 46.5%であった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したアラカシが 3 本存在している。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

順調に成長している。

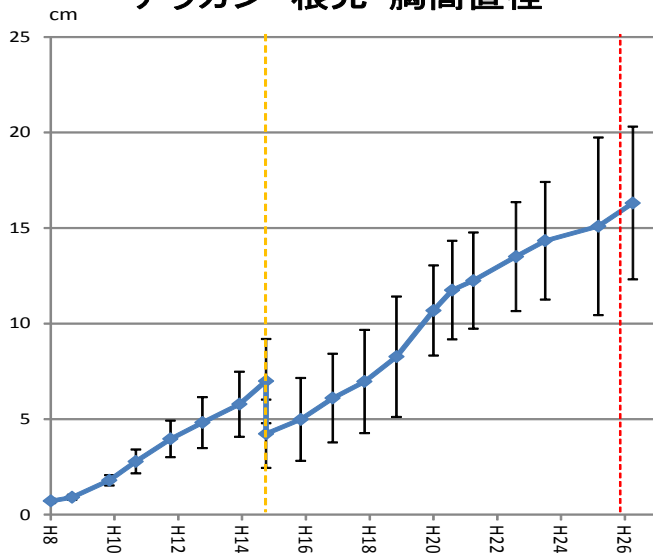
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 16.31 cmであった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したアラカシの平均胸高直径は 6.04 cmであり、植栽木より肥大成長は劣っている。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

アラカシ 根元・胸高直径



【樹 高】

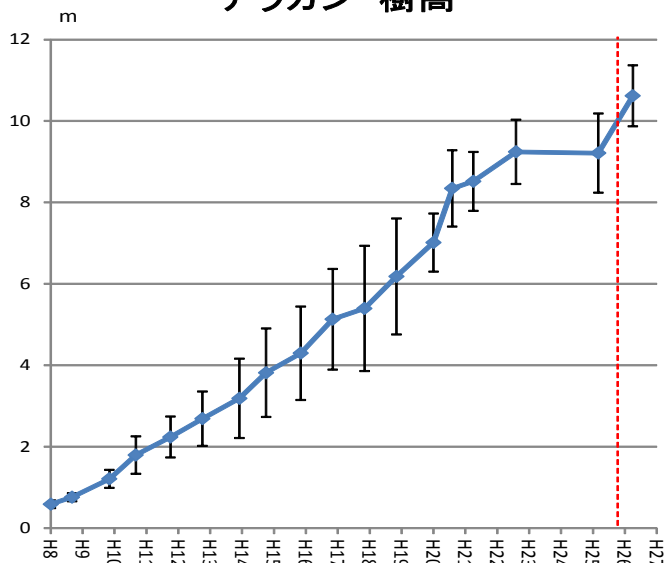
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 10.62m であった。

この他に当試験地内には樹齢が同一の自生したアラカシの平均胸高直径は 6.76 cmであり、植栽木より上長成長は劣っている。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

アラカシ 樹高



《プチ情報》

大きな木になると、クヌギほどではないが、カブトムシやクワガタムシの昆虫が集まる。